

## いただいたご意見と計画への反映について

## 町丁別人口・世帯数について

町丁別人口・世帯数は全体量が多すぎるので、町別にしてはどうでしょうか。

地域の方々に高齢化率などの現状について、より詳細な情報をお伝えするために、町丁別とさせていただきます。

同じ町内であっても人口構成等にばらつきがあることなどを認識していただけるよう、町丁別とさせていただきます。

なお、このデータにより認識していただきたいことを明確にするためタイトルを変更し、リード文として次の一文を追加することとしたいと思います。

## 「(2) 町丁別人口構成

中央区の高齢化率は22.8%（令和3年3月31日現在）で、6区の中で最も低くなっていますが、区内でも40%を超えるエリアもある一方、マンションの建設が多い地区など10%に満たないエリアもあります。」

## 福祉教育について

他者への理解や思いやり、自分とは異なる価値観など、多様性を認め合う社会の構築に必要な福祉教育に取り組むべき。特に、パラリンピックが日本で開催されたこともあり、障害者に関する人権教育に取り組むべきであり、福祉講話などの実施を地区部会から各学校へ積極的に働きかけるべきである。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市として、同大会を契機とした障害者理解の促進、社会参加事業を実施してきましたが、大会終了後もこれまで推進してきた取り組みをレガシーとして継続することとしており、第5次千葉市障害者計画（基本目標5-（1）「相互理解の推進」）の中に「福祉講話の開催」などを取組み事業として位置付けているところであります。

区の地域福祉計画は、各地域の問題・課題として把握された事項について当該地区の取り組みとして解決していく活動計画ではありますが、共生社会の実現やオリ・パラの精神をレガシーとして引き継ぐことを地域の方々に意識していただくため、基本方針6「福祉教育の推進」に次の一文を追加することとしたいと思います。

「人権尊重の意識を高め、地域社会から偏見や差別をなくすため、また、オリンピック・パラリンピックを契機として培われた共生社会の精神を継続・発展させるため、家庭、学校、地域などの場で福祉教育に積極的に取り組む。」

## 防災について

緊急時の避難先や避難情報の共有を、先行して避難が必要な障害者世帯や高齢者世帯は勿論、誰もが情報を確認できる方法を考えていく必要があります、地区ごとの課題ではなく、中央区全体での取組み課題とすべきである。

また、新たな気づきや実際の発災時の支援にも有効に作用すると思われるので、防災訓練を企画する際、障害者や高齢者など福祉的配慮の必要な方も参画すべきであり、実際そのような取組みを行っている地区もあるので、他の地域にも早急に広げていくことが大切ではないか。

東日本大震災においては災害弱者と言われる人々の犠牲が多かったことから、千葉市地域防災計画（第2章第7節「要配慮者の安全確保」）において、高齢者、障害者のほか難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人などを含めた要配慮者の安全確保体制の整備を図ることとしています。

ご指摘のとおり災害時の情報の共有化も大変重要な課題であり、市では、引き続き情報伝達手段の確保についても検討してまいります。また、災害弱者の企画段階での防災訓練参画についても、実施地区の取組み状況を調査し、事例紹介することにより、他の地域への拡大を図っていきたいと考えておりますので、基本方針7「人にやさしい生活環境づくり」に次の一文を追加することとしたいと思います。

「災害時の情報共有や要配慮者の参画による防災訓練の実施といった防災対策を進めるなど、地域が安全・安心で住みよいものになるよう、人にやさしい生活環境づくりを進める。」

## 身近な相談場所の周知について

支援の必要な方のSOSだけでなく、近隣住民がちょっとした変化を相談できる窓口の周知が求められる。特に、見た目ではわからない発達障害者や精神障害者に対しても相談窓口があることの周知を強化すべきと考える。

支援を必要とする方やそのご家族、近隣の方々にとって、何でも相談できる場所が身近にあることは必要不可欠なことであり、市ではその整備促進に努めているところです。

ご指摘いただいた相談窓口の周知についても、市の個別計画である高齢者保健福祉推進計画や第5次千葉市障害者計画（基本目標1－（1）「身近な相談支援機関の充実」）で取組項目として位置づけているところであるため、基本方針5「相談体制、情報提供の場づくり」に次の一文を追加することとしたいと思います。

「身近な相談場所を誰もが知っていて、いつでも気軽に、欲しい情報をわかりやすく提供できる体制を作る。」

## その他の事務局修正箇所

## 2 区の課題

## (1) 担い手に関すること

- 担い手の高齢化の問題
- 若い世代の担い手の確保 →若い世代の担い手の育成及び組織化の仕組みづくり

急速な高齢化の進行や、支援ニーズの多様化に伴い、福祉サービスや地域の活動を担う人材の不足は全国的な課題となっています。千葉市においても、役員などへの負担の偏りや、民生委員・児童委員をはじめとした、地域活動の担い手不足は大きな課題となっています。

若い世代の人々が地域のことに興味を持ち、担い手として活躍する人材の育成、地域活動の担い手を確保できる体制の整備について検討してまいりたいと考え、上記のとおり修正させていただきました。